

▼合唱の練習で、指揮を執る村上さん



「次の歌詞はリズムを大切にしてお歌ってみましょう。さん、はい」指揮棒に合わせて、合唱団メンバーの美しい歌声がピアノの音と共に室内に響きます。真剣に、ときに面白く解説をしながら指導するのは、市内4つの合唱団の指揮者を務める村上さんです。音楽は人並みに好きだったという村上さんですが、合唱や指揮の取り組み

を始めたのは、大学生の時でした。入学した時に、大学合唱団に誘われて入団した事がきっかけとなり、練習に励むことになりました。その後、大阪のクラシック音楽事務所での勤務を経て、山口県に戻り音楽活動を開始しました。岩国混声合唱団に所属し、数年の後に指揮者に就任。その後もイベントなどをきっかけとし

て、自身が指揮をする合唱団が増えていきました。普段は会社役員として仕事をする傍ら、土・日曜は演奏会などに向けた各合唱団の練習に取り組む日々を送っています。音楽の捉え方やその趣味も違う人たちと一緒に作っていく合唱。村上さんは指揮を執る際には、曲に対する自分の意志や解釈を出し

すぎないようにしているそうです。自分の目指す方向を伝えずに、まずメンバーの歌いたい気持ちや音楽の方向性を聞きながら練習を進めていきます。その中で、新しい事に気付き、当初とは別の方向に着地することもある。「生身の人間同士ならではの、自分では想像しなかった新しい音楽を作っている事が、合唱、また指揮をする面白みの一つですね」という村上さん。「合唱は、大勢の人で声を合わせて一つの音楽を作り上げていきます。自分が苦手な部分があっても、別の誰かがそれを補い、力を合わせることで、素晴らしい演奏になるんですよ。今までに経験がない人でも、歌うことが大好きという気持ちがあれば、必ずどこかで役に立つところがあります。その魅力を引き出すのも指揮者の仕事ですので、これからは工夫を重ね、楽しんで頑張りたいです」と、素敵な笑顔で語ってくれました。



大勢で作り上げる 音楽の楽しさ

Vol.61

村上 謙一郎さん
(多田在住)

大学生の頃に初めて合唱、指揮に携わり、46歳の現在市内4つの合唱団の指揮者を務める。2005年、芸術文化の分野において活躍が期待される若手に送られる岩国市文化協会文化奨励賞を受賞。



▲指揮を務める合唱団の一つ、愛宕フラウエンコールのメンバーと



▲2013年に行われた岩国混声合唱団40周年記念定期演奏会の様子

